

1銭、1円単位の コストダウンを大切に

コストダウンは「1銭、1円」の積み重ね

「現場が必死になってどうすれば安く良い商品をお客様に届けることができるか、どうすれば利益を少しでもあげられるかと汗と油にまみれて1銭1厘のコストダウンの努力をしている時に、空調のきいた部屋で働いている財務部門の人間が、相場の上げ下げで何億円儲けた、何億円損したなんてやってたら、ものづくりの現場のモラルがダウンしてしまう」

これは、トヨタの元社長の奥田碩氏が投資などの資金運用をしない理由を説明した時の話です。奥田氏は、コストダウンに取り組むうえでもっとも大切な感覚を持ち合わせていた人物だといえます。

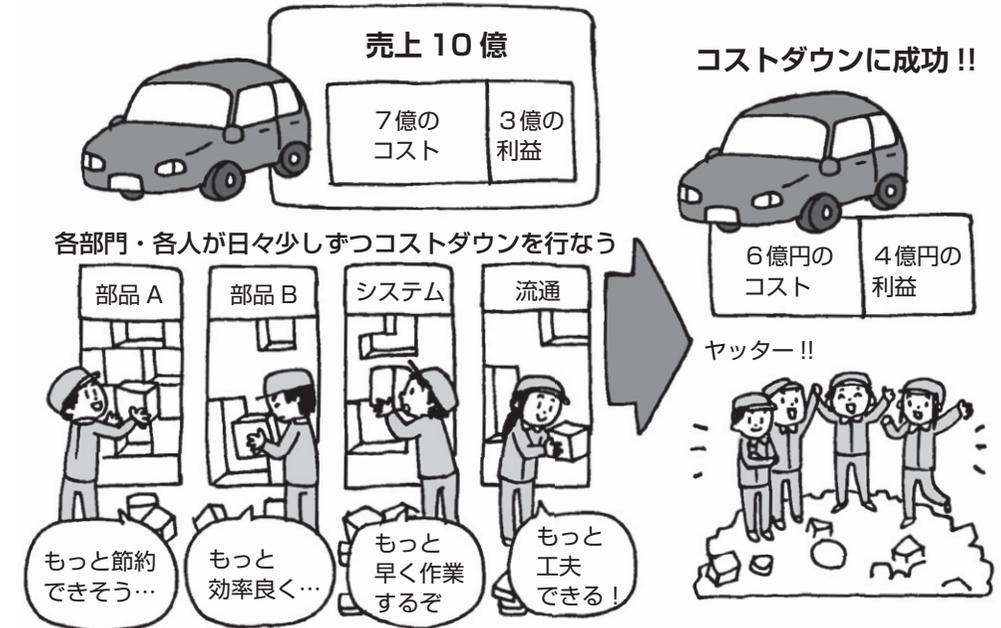
生産現場では、しばしば「1銭、1円単位のコストダウン」という言い方をします。1円はともかく、1銭は流通していない小さな単位です。そのため、この言葉にピンとこない人も多いでしょう。しかし、これはコストダウンの考え方を理解するうえで非常に大切な言葉です。なぜなら、車で使われる部品の単価には数十銭のものもあります。この数十銭を少しでも下げるために現場では血のにじむような努力をして円単位、銭単位のコストダウンを目指しているからです。

コストダウンは、全社一丸、全員参画で取り組むべきものです。生産現場の人の最大限の努力をムダにしないためにも、営業部門や間接部門で働く人も小さくて見えにくいお金の単位を意識する必要があるといえるでしょう。

部品1点1点のコストダウンが重要

スズキの会長である鈴木修氏もこんな話をしています。

「2007年の利益は900億円だから、自動車1台あたり3万円にしかない。さらに、1台あたりの部品点数を2万点とすると、1部品あたりの利益はわずか1円50銭にしかない。だから、1部品あたり1円50銭のコストを削減で



きれば利益は2倍になる。それを目指して、スズキでは日々10～20銭の単位でコスト削減に取り組んでいる」

トヨタやスズキのように、1台の車をつくるために2万～3万点の部品を必要とするものづくりの現場では、日々、円単位、銭単位のコストダウンに取り組んでいます。何億円という利益は、小さな部品ひとつのコストダウンなくして得ることはできません。だからこそ、部品1点1点に至るまで徹底的にコストダウンに取り組んでいくことが大切なのです。

コストダウンは一気にできない

コストダウンに魔法のような妙案はありません。その代わりに、1円2円の積み重ね、社員1人ひとりの小さな努力の積み重ねの力を信じて続ければ、結果的に大きなコストダウンが可能になります。

3万点の部品を1部品1円コストダウンすればいくらになるのか、社員1人が月に1,000円のコストダウンをすればいくらになるのかと考えることが、コストダウンを進めるうえで大切なのです。

- POINT**
- ① 間接部門の人も、1円1銭を意識しなければならない
 - ② 利益は部品1つひとつのコストダウンの積み重ねで生まれる
 - ③ コストダウンに妙案はない。小さな努力の積み重ねのみ